両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術

(心筋電極の場合) の施設基準に係る届出書添付書類 (経静脈電極の場合)

				*	該当	する届出事コ	頁を〇で囲	むこと。
1	届出種別							
	・新規届出 (実	績期間	年	月~	年	月)		
	・再度の届出(実	績期間	年	月~	年	月)		
2	2 標榜診療科(施設基準に係る標榜科名を記入すること。)							
3 心臓電気生理学的検査等の年間実施症例数								例
4	4 開心術及び冠動脈、大動脈バイパス移植術等の年間実施症例数 例							
	ペースメーカー移植術の年間実施症例数							
	(経静脈	電極)	例_		(心筋冒	፤極) _	例	
5 重症心不全治療に対して適切に対応できる施設								
※ 心筋電極の場合は(1)又は(2)のいずれかについて記入すること。								
(1)体外式を含む補助。	人工						
1	心臓等を用いた重症心	ン 不						例
全治療の経験症例数								
(2)集中治療室に係る届出 ア 区分番号「A301」特定集中治療室管理料								
│ (届出を行っているもの │ イ 区分番号「A301-4」小児特定集中治療室管: │								僚至管理
に〇印をつける。) 料								
	 常勤医師の氏名	勤務時間		診療科名		所定	所定の研修修了年月日	
			時間					
			時間					
			時間					
			時間					
7 当該保険医療機関内で必要な検査等が常時実施できる機器 (一般的名称) (承認/認証番号)								
(一般的名称) (承認/認証备号) □ 血液学的検査								
1 -	」 血放子的快量 □ 生化学的検査							
_		 +6 □		+	L -4- 1			T.
│ 8 重症心不全患者又は不整脈患者の治療方針を決定するカンファレンスの名称 │								

[記載上の注意]

- 1 「1」は特掲診療料施設基準通知第2の4の(3)に定めるところによるものであること。
- 2 「3」は、新規届出の場合には実績期間内に心臓電気生理学的検査が 25 例以 上、再度の届出の場合には実績期間内に心臓電気生理学的検査が 50 例以上必要 であること。ただし、心筋電極によるものの場合は、体外式ペースメーカーを用 いた循環器集中管理を実施した症例数を合わせて当該基準を満たせばよいもの であること。また、当該手術症例一覧(実施年月日、手術名、患者の性別、年齢、 主病名)を別添2の様式 52 により添付すること。
- 3 「4」は、新規届出の場合には実績期間内に開心術又は冠動脈、大動脈バイパス移植術を合わせて15例、かつ、ペースメーカー移植術を5例以上、再度の届出の場合には実績期間内に開心術又は冠動脈、大動脈バイパス移植術を合わせて30例、かつ、ペースメーカー移植術を10例以上が必要であること。ただし、心筋電極によるものの場合は、新規届出の場合には実績期間内に開心術、冠動脈バイパス術、大血管(ただし、動脈管開存に対する根治術を除く。)、弁疾患又は短絡手術を合わせて15例、かつ、経静脈電極によるペースメーカー移植術を年間5例以上又は心筋電極によるペースメーカー移植術を1例以上、再度の届出の場合には実績期間内に開心術、冠動脈バイパス術、大血管(ただし、動脈管開存に対する根治術を除く。)、弁疾患又は短絡手術を合わせて30例、かつ、経静脈電極によるペースメーカー移植術を除く。)、弁疾患又は短絡手術を合わせて30例、かつ、経静脈電極によるペースメーカー移植術を3年間に3例以上が必要であること。また、当該手術症例一覧(実施年月日、手術名、患者の性別、年齢、主病名)を別添2の様式52により添付すること。
- 4 「5」は、十分な経験のある施設であることがわかるように、実績期間における症例数をすべて記入すること。また、当該手術症例一覧(実施年月日、手術名、 患者の性別、年齢、主病名)を別添2の様式52により添付すること。
- 5 「6」の常勤医師の勤務時間について、就業規則等に定める週あたりの所定労働時間(休憩時間を除く労働時間)を記載すること。 また、当該常勤医師の所定の研修修了の有無がわかるもの(当該研修の名称、実施主体、修了日及び修了者の氏名等を記載した一覧でも可)を添付すること。
- 6 「8」は心筋電極によるものの届出を行う場合に記入し、重症心不全患者又は不 整脈患者の治療方針を決定するカンファレンスの議事録を、個人情報をマスクした上 で、添付すること。
- フ 当該届出は、病院である保険医療機関のみ可能であること。